

第九回はんだ山車まつりへのご寄付ありがとうございました

※敬称略

寄付者（寄付日順）	金額
株式会社豊田自動織機 東知多工場	1,000,000円
公益財団法人JFE21世紀財団	2,500,000円
半田緑化研究会	200,000円
瀧上工業株式会社 代表取締役社長 瀧上 晶義	1,000,000円
ツカサ工業株式会社	1,000,000円
JFEスチール株式会社 知多製造所	750,000円
半田建設防災協会	1,300,000円
アイシングループ 株式会社アイシン、株式会社アドヴィックス	1,000,000円
中部電力パワーグリッド(株) 半田支社	500,000円
半田信用金庫 理事長 古田 明典	1,000,000円

寄付者（寄付日順）	金額
日本ガイシ株式会社 知多事業所	1,500,000円
(一社) 半田市医師会・ 半田市医師会健康管理センター	300,000円
知多信用金庫 理事長 間瀬 朱実	2,000,000円
株式会社トヨタエンタプライズ	1,000,000円
半田金融協会	1,200,000円
ミツカングループ	5,000,000円
株式会社 コメ兵 代表取締役社長 石原 卓児	144,924円
有楽グループ	500,000円
神原 敏雄	200,000円
明治安田生命保険相互会社 刈谷支社	100,000円

ごん吉くんレポート

第69回

～南吉よもやま話～

南吉と知多の自然



2023年は新美南吉生誕110年

新美南吉文学の特徴として、よく郷土性が挙げられます。たとえば代表作の「ごん狐」は岩滑を舞台にしていますし、「おじいさんのランプ」に出てくる大野や半田池など、具体的な地名を書いている作品も少なくありません。そして郷土を舞台にしながら、南吉はそこに息づく自然も描きました。彼岸花、ヒサカキ、ハンノキなど、南吉の作品を読めば、当時の景色に想いを馳せることができるでしょう。時に散歩を日課としていた南吉の日記を見ると、いかに彼が普段から周りの自然に目をやっていたのかがうかがえます。

六月。実るのは麦ばかりではない。路傍の雑草も亦実を結ぶ。こころみに手を草の中にさし出してみたまえ。草はいかに喜んでその実を分けてくれることか。

（昭和12年5月26日の日記より）

花や木だけでなく、道端の雑草でさえ、南吉にとっては書き留めるべきものの一つであったようです。南吉は書きたいから書く作家でした。童話に限らず詩もたくさん残っていて、南吉がふと心を動かされた、さまざまな草花や樹木、小さな生き物たちの命をうたっています。

新美南吉記念館では11月3日（祝）～令和6年1月21日（日）まで、企画展「詩と遊ぶ・新美南吉と知多の自然」を開催します。知多半島をフィールドに活動している写真家 相地透さんが写した自然の写真とともに、南吉の詩を紹介しますので、ぜひご覧ください。



◎相地透